

建築計画部門 ―パネルディスカッション (2)

建築計画学の国際化に向けた戦略2 ―実践編

[資料あり]

9月12日(火) 13:30~17:00 オンライン 第H室

司会 岩佐明彦(法政大学)

副司会 松田雄二(東京大学)

記録 野村理恵(北海道大学)

1.主旨説明 西野辰哉(金沢大学)

2.主題解説

①海外留学のススメ

佐倉弘祐(信州大学)

②国際会議を活用する

佃 悠(東北大学)

③英文ジャーナルに投稿する

松原康介(筑波大学)

④海外に研究フィールドを持つ

前田昌弘(京都大学)

⑤海外の研究者と協働する

垣野義典(東京理科大学)

⑥学問を世界化する―国際学術会議を中心とする営み

横山ゆりか(東京大学)

3.討論

4.まとめ 小野田泰明(東北大学)

建築計画学は、ユーザーの立場から建築や空間を捉えることにより、客観的な根拠によって建築や空間のあるべき姿を示す学問領域と捉えることができる。ただし、東アジアの一部の国々を除き、建築学の中に建築計画学を体系づける国は少ないため、国際的なカウンターパートを見つけることが難しく、知見を海外と日常的に交換しながら高めるサイクルの確保が困難であるという現実がある。この問題意識より、建築計画委員会では2020年に「建築計画学の国際化に向けた戦略」と題した研究懇談会を開催し、海外カウンターパートの情勢やそれらとの連携手法について議論した。本パネルディスカッションは、この研究懇談会を受けて建築計画委員会傘下に設置された「国際化支援ワーキンググループ」の議論と成果を報告するものである。

国際化支援ワーキンググループでは、「若手研究者・学生の海外進出のきっかけ作り」「若手研究者の国際会議等への参加」「中堅以上の研究者の海外ネットワーク作り」などについて、それぞれ実績のある研究者からの話題提供と議論を行った。本パネルディスカッションでは、それらの情報を共有し、建築計画学に関わる研究者と学生、特に若手の研究者の国際化を支援するために、海外留学、国際会議の参加、ジャーナル投稿、国際的研究活動など、様々な段階における求められる方策とその実践について報告と議論を行う。国際的な活動に興味がある、あるいは実践において悩みや困難を持つ研究者や学生諸氏の、積極的な参加を期待する。